

# 大分市感染症発生動向情報

(2025年第37週 9月8日～9月14日)

今週の動向について

(大分市保健所)

**新型コロナウイルス感染症の患者報告数は14.88でした。**  
**前週より増加しており、引き続き注意が必要です。**

- 〈症状〉 発熱や風邪症状(のどの痛み、咳、食欲不振、倦怠感、頭痛、下痢)が特徴です。
- 〈経路〉 手指に付着したウイルスや、感染者の咳、くしゃみや会話などで生じるウイルスを含んだ飛沫や空气中を漂うエアロゾルが、目や気道の粘膜に侵入することで感染します。
- 〈予防〉 流水と石けんによる手洗いやアルコール手指消毒剤の使用、部屋の換気、マスクの着用などの基本的な対策を心がけましょう。

**伝染性紅斑の患者報告数は5.73でした。**  
**前週より減少していますが、警報レベルが続いており、引き続き注意が必要です。**

- 伝染性紅斑は別名「リンゴ病」と呼ばれる、小児を中心とする発しん性の病気です。
- 〈症状〉 約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失します。
- 〈経路〉 感染している人の咳やくしゃみ等しぶきを吸い込む飛沫感染と、ウイルスが潜んでいる鼻水や唾液等が付着した物や手指を触ったりなめたりすることで感染する接触感染があります。
- 〈予防〉 流水、石けんによる手洗いが基本です。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避け、使い捨てのペーパータオル等を使用しましょう。

**感染性胃腸炎の患者報告数は19.45でした。**  
**前週より増加しており、引き続き注意が必要です。**

- ウイルス性の感染性胃腸炎は、1年を通して発生しており、ノロウイルスやロタウイルスなどが原因で起こる疾患です。
- 〈症状〉 原因となるウイルスなどによって異なりますが、主に嘔吐や下痢、腹痛、発熱などがみられます。
- 〈経路〉 多くの場合、汚染された水や食品による経口感染や、感染者の嘔吐物や便に触れた手を介して感染します。
- 〈予防〉 特に調理前・食事前や排便後の手洗いを十分に行い、タオルの共用は避けましょう。
- 〈処理〉 嘔吐物や便などを処理する際はマスクや手袋を着用し、ペーパータオル等で嘔吐物や便を拭き取り、ビニール袋などに入れしっかりと封をして廃棄してください。その後、嘔吐物・便のあった場所と汚れた衣服・物品を消毒液:水490ml+ペットボトルキャップ2杯(10ml)の塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)で消毒してください。

**RSウイルス感染症の患者報告数は3.00でした。**  
**前週より減少していますが、引き続き注意が必要です。**

- RSウイルス感染症は感染力が強く、2歳頃までにほぼ100%の子どもが感染するとされる呼吸器の感染症です。
- 〈症状〉 軽い風邪症状から重い肺炎までさまざまです。初感染の乳幼児では肺炎、細気管支炎、急性脳炎などの合併症がおこる場合もあります。
- 〈経路〉 感染している人の咳やくしゃみ等しぶきを吸い込む飛沫感染と、ウイルスが潜んでいる鼻水や唾液等が付着した物や手指を触ったりなめたりすることで感染する接触感染があります。
- 〈予防〉 流水、石けんによる手洗いが基本です。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避け、使い捨てのペーパータオル等を使用しましょう。  
保育園等、集団生活の場で感染が拡大しやすいため、おもちゃ等の消毒(アルコール等)に心がけましょう。

	1 インフルエンザ	2 新型コロナウイルス 感染症	3 RSウイルス 感染症	4 (咽頭結膜熱) （ブル熱）	5 レンサ球菌咽頭炎 A群溶血性	6 感染性胃腸炎	7 水痘（水ぼうそう）	8 手足口病	9 (伝染性紅斑) （リンゴ病）	10 突発性発疹	11 ヘルパンギーナ	12 (流行性耳下腺炎) （おたふくかぜ）	13 マイコプラズマ 肺炎
年齢区分													
0歳		0.47	0.73		0.00	1.55			0.00	0.27			
1~3歳		0.82	2.00	0.64	0.91	7.00	0.00	0.18	1.55	0.45	0.09	0.00	0.18
4~6歳		1.29	0.27	0.27	1.82	4.64	0.09		2.82		0.18	0.09	0.45
7~9歳		1.94	0.00	0.27	1.27	3.27	0.00		1.09				0.18
10~14歳	0.06	3.59		0.00	0.45	2.64			0.27			0.00	0.36
15~19歳		1.59			0.09	0.36							
20歳以上		5.18	0.00		0.00	0.00							
計(今週)	0.12	14.88	3.00	1.18	4.55	19.45	0.09	0.27	5.73	0.73	0.36	0.18	1.27
A型	0.12												
B型	0.00												
不明	0.00												
70歳以上 (再掲)	0.00	1.18											
前週	0.06	14.41	4.82	1.09	5.09	16.45	0.55	0.18	6.45	1.00	0.45	0.36	1.91

※指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点当たりに概算して計上  
(定点医療機関数 インフルエンザ・新型コロナウイルス17 小児科11)

急性呼吸器感染症…咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれかの1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	合計
37週(今週)	6.65	34.82	24.00	10.00	2.76	2.06	2.88	1.59	1.53	1.24	1.00	0.71	89.24
36週(前週)	5.76	35.24	16.24	6.00	2.12	2.18	1.65	1.59	1.41	1.35	1.65	0.88	76.06

全数報告 (市内医療 機関分)	年代	14歳以下	15~19歳	20~24歳	25歳以上	合計(今週)	合計(前週)
	麻しん	0	0	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0	0	0
百日咳	15	4	0	8	27	40	

#### 警報・注意報の基準値

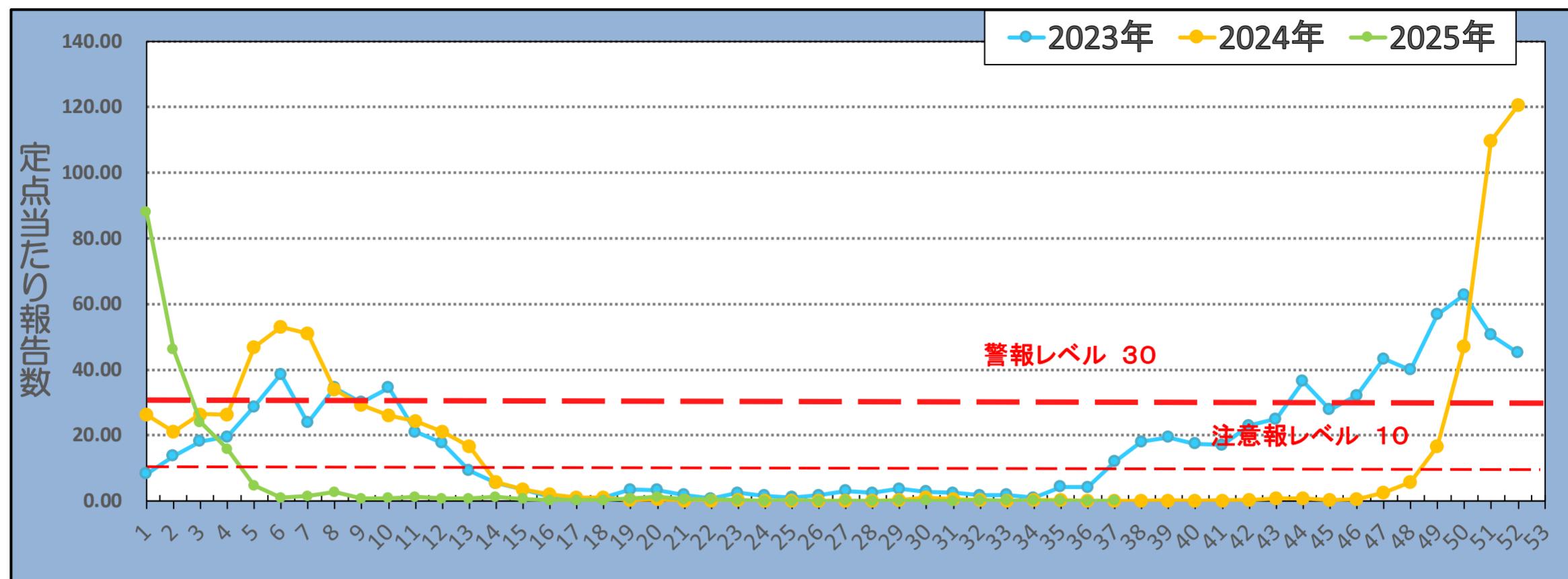
疾患名	警報レベル			注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値	
インフルエンザ	30	10	10	
感染性胃腸炎	20	12		

・警報レベル…大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを示します。

・注意報レベル…流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを示します。

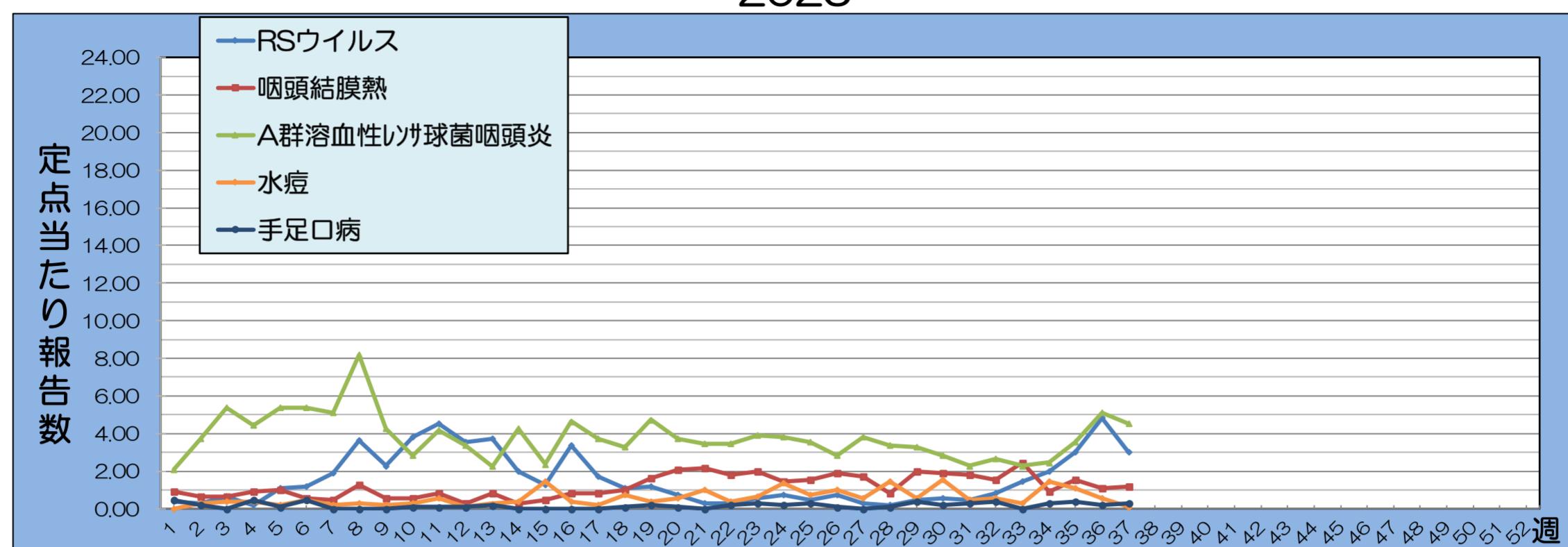
※新型コロナウイルス感染症については、厚生労働省が「警報レベル」および「注意報レベル」は定めていません。そのため、大分県ではインフルエンザと同じ基準値を採用しています。

### 定点当たり報告数 インフルエンザ (3年間)

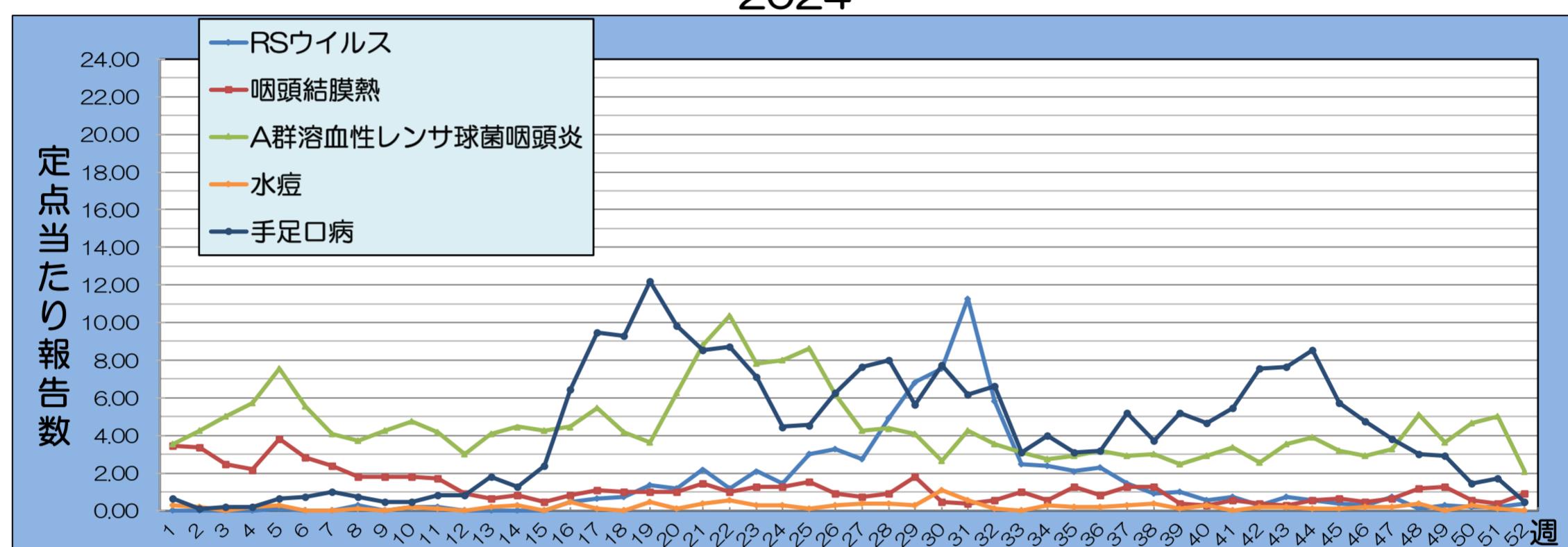


## 週別・疾病別患者数(グラフ)

2025



2024



2025

